ITTF Women's World Cup Chengdu 2019

2019女子ワールドカップ

10/18-20 中国・成都

劉詩雯が5度目のワールドカップチャンピオン

劉詩雯（中国）

安定したプレーを見せ、終盤でしっかりと粘り強さを発揮し、実力を証明した。「第2・第3ゲームでやるべきことを、たくさんの方に声援を送っていただき感謝しています」とコメント

2018年の世界選手権と比べるとやや精度が落ちたが、しっかりと実績を残したところに、わずかの一言、コース取りが抜群によく、スピーディーな攻撃をみせた。「たくさんの方が応援に来てくれ、嬉しく思います。11月には東京オリンピックと同じ場所でチームワールドカップが行われます。良い雰囲気にして、本番に備えるようにしたいです」

陳夢（中国）

石川佳純（日本）

孫天香（シンガポール）

平野美宇（日本）

リリー・チャン（アメリカ）

メシュレフ（エジプト）

スッチ（ルーマニア）

杜凱琹（中国香港）

チャン・モー（カナダ）

朱成鵬（チャイニーズタイペイ）

ソルヤ（ドイツ）

ボルカノバ（オーストリア）

レイ・ジャンファン（オーストラリア）

バルティル（ポーランド）

サマラ（ルーマニア）

ディアス（プエルトリコ）

朱真慶（チャイニーズタイペイ）

田志希（韓国）

クー・ユエ（アメリカ）

2019女子ワールドカップが、10月18～20日まで、中国・成都で行われた。
有力選手が出場した選手のみが参加できる最大会は、ハイレベルの試合が展開された。
女子決勝は、劉詩雯と朱真慶の中国選手同士の対戦となり、地元のファンによる大応援合戦の中、第中力を切らさず粘り強のプレーをみせた劉詩雯が勝利し、5度目のワールドカップチャンピオンとなった。朱真慶や孫天香のねばりプレーをみせたが、惜しくも決勝戦。3位決定戦は、石川佳純に勝利した孫天香（シンガポール）と平野美宇に勝利した、リリー・チャンが対戦。ブキーナレイプからの長所が輝く、粘を使った攻撃戦術を見せた孫に軍配。3位が決まった。
石川佳純は、準々決勝で惜しくも、フリー戦の攻撃戦、平野美宇は、4強でリリー・チャンに敗れ、日本人選手は表彰台に上がれなかった。

特徴的に表情を仕掛け情報を利用。少しでも入った球に対しても、フリー戦に対する決定力を発揮した。「第2の試合は1ゲーム目を取られてしまったのが悔いた」

多彩を決めた後、プレッシャーから解放され、笑顔をみせた

台上技術が安定し、攻撃に結びつけた孫。観客を利用、場面によって自信に対応し、自分を観察できる様に入った。「自信としていた分に入れて嬉しい。1球1球プレーし、全力でプレーします」とコメント

5ゲーム目に落としてしまい悔しい表情となった。5ゲーム目は、ロングラリーの中とコース取りをみせるが、J字型のエスが安定するかの試合となった

ワイルドカードでの出場となった今大会。予選リーグから勝ち上がり、決勝に進出。思い切りの良い両ハンドの攻撃とフリー戦に強さをみせた

打球点はやや上で早くないが、しっかりと回転をかけた両ハンドの攻撃は威力があった

特徴のあるプレースタイルのスッチ。打点の早いバックハンドの攻撃と回転をかけたフォアハンドを使い上手かった

強敵でソルヤと対戦し、バックハンドからの両ハンドの長く伸ばを使い上手、フォアハンドの攻撃でややミスが目立った

オセアニア代表選手。攻守ラバーを活用し、ラケットを活用しての攻撃が光った

威力あるフォアハンド攻撃を軸に、バックハンドを用のバランスがよかった

今大会、調子を崩せずに強い攻撃となっていた。バックハンドの攻撃がよかった

地面を利用しているのか、本来のフォアハンドのプレーではなかったが、バックハンド攻撃を強ピチ面を活用した

1本取るごとに大きな声を出して気持ちの入ったプレーをみせ、今大会における両ハンドの攻撃を中心とした、安定感のあるフリー戦攻撃

日・ロッパチャンピオン。回転量の多い両ハンドの攻撃を中心とし、後上に長所あり

長身を生かし、ボールを上から叩くような攻撃。攻撃力十分、フリー戦にも強さをみせた

ベンアメリカ代表チャンピオン。ボールキャッチが良く、フォアハンドに迫力があった

パワフルな両ハンド攻撃をみせて、勝ち1ゲームを取った

強烈にフォアハンドドライブで攻撃を仕掛け得点を重ねた

ダイナミックなフォームから強打する両ハンド攻撃をコーナーに打ち分けた